

伝統と賑わいが息づく 仁瀬本神社例大祭



9月19日、安和元年（968）に創建されたと伝わる（『熊本県神社誌』）仁瀬本神社で、例大祭が開催されました。地域を護る氏神様のお祭りとして、氏子や各地区の総代、若手有志による実行委員会が準備を進め、この日を迎えました。

神事の後には、ご神体を乗せた神輿が二瀬本周辺を練り歩きました。神輿が近づくと、その下をくぐる住民の姿も。無病息災や家内安全を願いながら、地域に受け継がれてきた祭りを楽しみました。

会場では、神楽の奉納をはじめ、蘇陽小学校鼓笛隊や二瀬本保育園エイサー隊による演奏・演舞も披露され、大きな拍手に包まれました。こども相撲や屋台もあり、子どもから大人まで祭りを満喫。総合司会の田中洋平さんも会場を盛り上げ、たくさんの笑顔が見られました。

地域の人々が集い、笑い、祭りを楽しむ一日。長い歴史を持つ仁瀬本神社の例大祭は、地域の絆と伝統を次の世代へつないでいきます。



地域の伝統をつなぐ 入佐神社奉納宮相撲



9月21日、入佐神社の秋の大祭「風鎮祭」に合わせ、入佐神社奉納宮相撲が開催されました。この行事は、豊作への感謝と地域の無病息災、子どもたちの健やかな成長を願い、毎年同日に行われています。

当日は、ご神木と本殿のしめ縄を新しく張り替え、神事とあわせて取組の安全が祈願されました。そのご神木には相撲の神様が宿り、取組を見守ると伝わっており、当日は神床が飾られています。

神事後、夕方から宮相撲が始まると、0歳から小学生までの子どもたちが年齢や学年に応じて東西に分かれ、元気いっぱい真剣勝負を披露しました。3人抜きや5人抜きを達成した子どもには、勝負のあかしとして土俵を囲む竹に飾られた御幣が贈られ、会場から大きな拍手が送られました。

取組の後には、請元の男性たちが3升3合3勺の米を丸く握ったおにぎりを子どもたちに振る舞い、地域に受け継がれてきた伝統と温かなつながりを感じる一日となりました。